

令和4年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



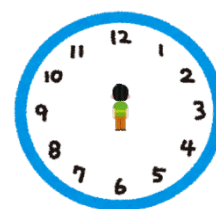
7月号

ヤンキー君と白杖ガールより

6月号で、視覚障害の方に場所を示す際に、「あっち」「そっち」ではなく、具体的に伝えることが大切だとお話ししました。今回は、場所や位置の把握についてお話しします。

〈クロック・ポジション〉

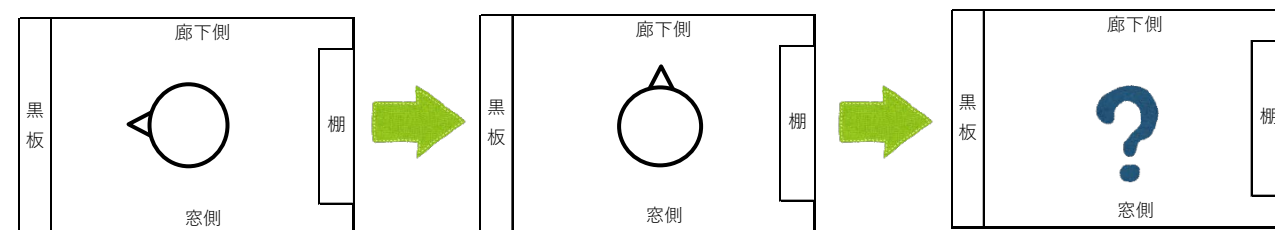
『ヤンキー君と白杖ガール』の食事の場面で紹介されていた「クロック・ポジション」は、アナログ時計の文字盤を理解している人にとっては便利です。例えば、給食で右図のように出てきた場合には、「お盆の8時のところにご飯、6時のところにお箸があるよ」と、伝えます。この時に、お盆の上かテーブル全体なのか、どの範囲を時計に見立てているかがポイントとなります。食器や食べ物が残っているときには、食器の中をクロック・ポジションで伝えることで、何がどこに残っているかが分かります。



クロック・ポジションは、進行方向や建物などの位置を知らせるときにも便利です。視覚障害の方が、時計の文字盤の中央にいるとして、正面を12時、後ろを6時と表わします。視覚障害の方にとって、周囲の環境の中での自分の位置や方向が分かる手がかりになります。

〈方向感覚の把握〉

例えば、下図のように、教室で黒板を正面にして立っているAさんに「右に向く」と指示を出します。どこを正面にしているか尋ねると、「廊下側」と答えると正解です。次に「右、左、左、左に向く」と指示を出します。さて、Aさんは一体どの方向が正面になっているでしょう。



私たちは、空間の中での位置関係や方向を視覚情報から認識しています。目を閉じて同じような体験をしたとき、教室の広さや、どこに窓や黒板があるのかをイメージしていますよね。視覚障害の方も教室の全体を頭で思い浮かべながら、自分の正面がどこを向いているのか把握しなければなりません。その時に手がかりになるのが、五感と身体運動感覚です。窓側からの太陽の光や風を感じることができれば、自分の体がどの方向を向いているかが分かります。学校や家庭などある程度限られた空間で移動するときには、音の響きや手で触ってわかる手がかりなどで場所を確認することができます。

このような感覚を培っていくためには、幼児期から五感を使った遊びや、前後左右など方向を意識できるような言葉がけが大切となります。

青空に浮かぶ雲が、一段と白く輝く季節となりましたね。夏の日差しが降り注ぎ、いよいよ夏本番だなと感じます。今年も本校でも水泳授業が再開し、プールから子どもたちの楽しい声が聞こえてきます。7月、8月の各講座は以下の通り予定しています。よろしくお祈りします。

サマースクール

日時 令和4年7月25日(月) 10:00~12:15
対象 本校教育相談の幼児児童生徒と兄弟姉妹
内容 プールでの水遊び

視覚障害のガイドヘルプ&点字体験～見えない・見えにくいってどんなこと?～

日時 令和4年8月3日(水) 9:30~15:15
対象 視覚障害や点字に興味がある方(小学生は保護者同伴のこと)
内容 「視覚障害ってなあに?」
全盲と弱視について、視覚障害者の立場からの話など。
「ガイドヘルプってなあに?」
視覚障害者を見かけた時に役立つポイント、手引きなど。
「点字ってなあに?」
点字の成り立ち、身近にある点字の紹介、
点字盤で書いてみるなど。

弱視教育研修会

日時 令和4年8月5日(金) 9:50~15:30
対象 小中学校等に在籍する弱視児童生徒にかかわる教職員
弱視教育に関心のある教職員 本校教職員
内容 講演 「UDブラウザについて(仮題)」
講師 慶応義塾大学 中野泰志教授
体験活動「弱視キットによる弱視体験」
視覚障害関連機器の展示・見学
情報交換・交流会